

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第 1 面）

産 業 廃 棄 物 処 理 計 画 書

令和 5 年 6 月 26 日

青森県知事 三村 申吾殿

提出者

住 所 青森県三戸郡階上町大字角柄折字新沼館 9-159

氏 名 階上キューピー株式会社

代表取締役 山口 真

電話番号 0178-88-2011

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事 業 場 の 名 称	階上キューピー株式会社
事 業 場 の 所 在 地	青森県三戸郡階上町大字角柄折字新沼館 9-159
計 画 期 間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事 業 の 種	0995 冷凍調理食品製造業
② 事 業 の 規	製造数量 11,057t
③ 従 業 員 数	346 人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1 のとおり

（日本産業規格 A 列 4 番）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図) 別紙2のとおり		

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t
	(これまでに実施した取組)	
② 計画	【目標】別紙3のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の分別に関する事項	
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・新入社員に対するエコヤード1日体験実習の実地 ・新規入職者の廃棄物説明
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃棄物分別に関する周知活動 ・金属(圧縮缶)混合ゴミの分別徹底による更なる有価物化

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	—t	—t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	—t	—t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和4年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	—t	—t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	2085.4t	—t
	(これまでに実施した取組) 廃水処理設備更新、処理の安定化による汚泥の減量		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	—t	—t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	2064.5t	—t
	(今後実施する予定の取組) ・定期的な設備保全による設備能力維持 ・設備運転自動制御化		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	—t	—t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	—t	—t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和4年度 ）実績】別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第 5 面)

② 計画	【目標】別紙 3 のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



別紙2

産業廃棄物の処理に係わる管理体制に関する事項

(1) 責任者及び管理組織図

統括責任者		所属：階上キューピー株式会社	職・氏名 代表取締役 山口 真
廃棄物担当		所属：生産技術課 組織人数：7人	担当責任者 生産技術課 課長
役割	廃棄物担当責任者	○廃棄物処理に関する検討 ・廃棄物の発生抑制、再資源化・経費低減策の提案と実行(有価物) ・ゼロMISSIONの達成推進 ・分別方法の教育	
	環境管理統括責任者	・廃棄物処理方針の策定 ・廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認	
	廃棄物管理担当課	・廃棄物処理計画の作成 ・廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ・産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ・処理業者、再生利用業者の訪問調査、選定及び管理 ・委託契約の締結 ・産業廃棄物管理票の交付・管理 ・監督官庁への報告 ・その他関係する事項	


```

graph TD
    A[食品残渣管理責任者  
オブザーバー  
製造課長 (職場担当者)] --- B[環境管理統括責任者  
(代表取締役)]
    A --- C[廃棄物担当責任者  
生産技術課課長]
    A --- D[廃棄物担当  
生産技術課]
    B --- C
    C --- D
    D --- E[製造1課]
    D --- F[製造2課]
    D --- G[スタッフ部門]
      
```

(2) 教育・研修

資源として再利用できる為の分別方法の推進PRを行う

(3) 情報公開

親会社である、キューピー株式会社の発行する環境報告書に、弊社の廃棄物発生量・処理状況を掲載し、情報公開とする。

別紙3

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥	廃プラ	その他
	排出量(t)	236.8	2537.3	115.1	10.6
	(これまでに実施した取組) 製造不良率改善				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥	廃プラ	その他
	排出量(t)	234.4	2512.0	113.9	10.5
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物発生量の製造現場へのフィードバック 廃棄物分別の呼びかけ、説明の実施				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥	廃プラ	その他
	全処理委託量(t)	236.8	452.0	115.1	10.6
	優良認定処理業者への				
	再生利用業者への処理委託量(t)	229.0	412.1	115.1	2.4
	認定熱回収業者への処理委託量(t)				
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ				
	(これまでに実施した取組) 処理の委託先も万が一を考え、再生利用を行う委託先のダブル化を進め、確実な処理の継続を行っていく。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥	廃プラ	その他
	全処理委託量(t)	234.4	447.5	113.9	10.5
	優良認定処理業者への				
	再生利用業者への処理委託量(t)	226.7	408.0	113.9	2.3
	認定熱回収業者への処理委託量(t)				
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ				
	(今後実施する予定の取組) 積み替え保管を減らす業者選定。				